(2) 地域の自然的状況に係る項目

A. 地形及び地質の状況

a. 地形及び地質

(ｱ) 地形の分布状況

札幌市の地形は表3.2.1-20及び図3.2.1-11に示すとおり、大きく分けて山地、丘陵地、台地・段丘、低地の４つに区分することができ、低地は、さらに扇状地性低地、三角州性低地、自然堤防・砂州に分けられる。

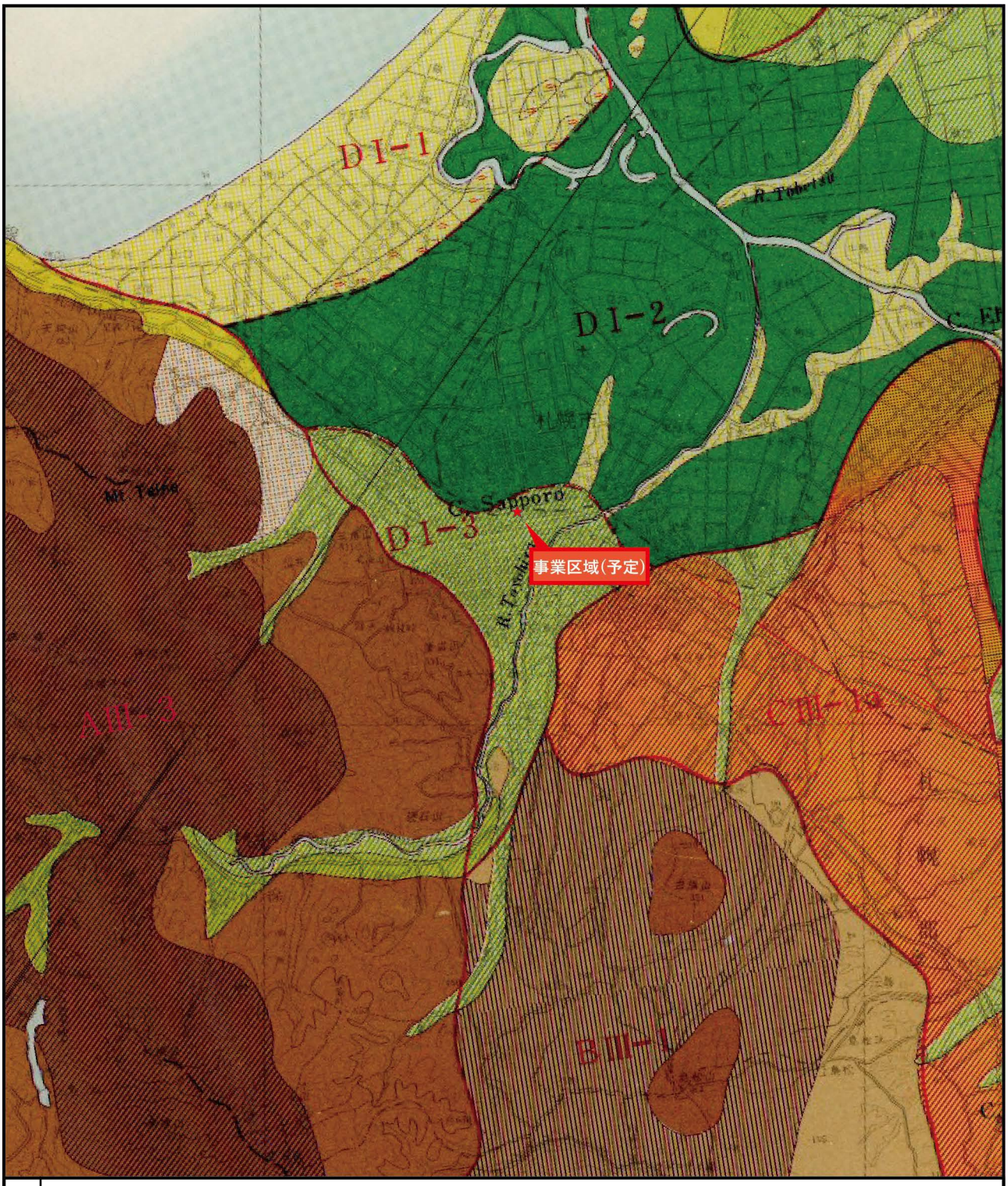
事業区域西側は低地～山地、北側は低地、東側は低地～台地・段丘、南側は低地～丘陵地となる。

事業区域周辺の地形は低地であり、事業区域は扇状地性低地に位置している。

表3.2.1-20　札幌市の地形分類区分

大区分	中区分	小区分
山地	胆振山地	中起伏山地
		小起伏山地
		山麓地
丘陵地	島松丘陵	大起伏丘陵地
		小起伏丘陵地
台地・段丘	野幌台地	砂礫台地(中位)
		砂礫台地(下位)
		ローム台地(中位)
		ローム台地(下位)
低地 (石狩湾岸低地)	花畔砂丘地	扇状地性低地 三角州性低地 自然堤防・砂州
	石狩低地	
	札幌扇状地	

出典：「土地分類図 地形分類図(石狩・後志・胆振支庁)」(国土庁土地局)



凡例

★ ：事業区域（予定）

AIII-3 ：胆振山地
BIII-1 ：島松丘陵
CIII-1a：野幌台地
DI-1 ：花畔砂丘地
DI-2 ：石狩低地
DI-3 ：札幌扇状地

山地
：中起伏山地
：小起伏山地
：山麓地

低地
：扇状地性低地
：三角州性低地
：自然堤防・砂州

丘陵地
：大起伏丘陵地
：小起伏丘陵地

台地・段丘
：砂礫台地(中位)
：砂礫台地(下位)
：ローム台地(中位)
：ローム台地(下位)

付加記号
：湖沼・河川等
：地形地域区界線

注）下記出典資料をもとに作成
出典：「土地分類図 地形分類図(石狩・後志・胆振支庁)」(国土庁土地局)

図3.2.1-11　地形分類図

0　2　4　10km
1：200,000

N

(ｲ) 表層地質の分布状況

事業区域周辺の表層地質の状況は、表3.2.1-21及び図3.2.1-12に示すとおりである。

事業区域周辺の表層地質は、南側が砂、礫、粘土、壌土からなる札幌扇状堆積物に、北側が埴土、砂からなる北部札幌埴土に区分される。

事業区域は、札幌扇状堆積物に区分される。

表3.2.1-21　事業区域周辺の地質区分

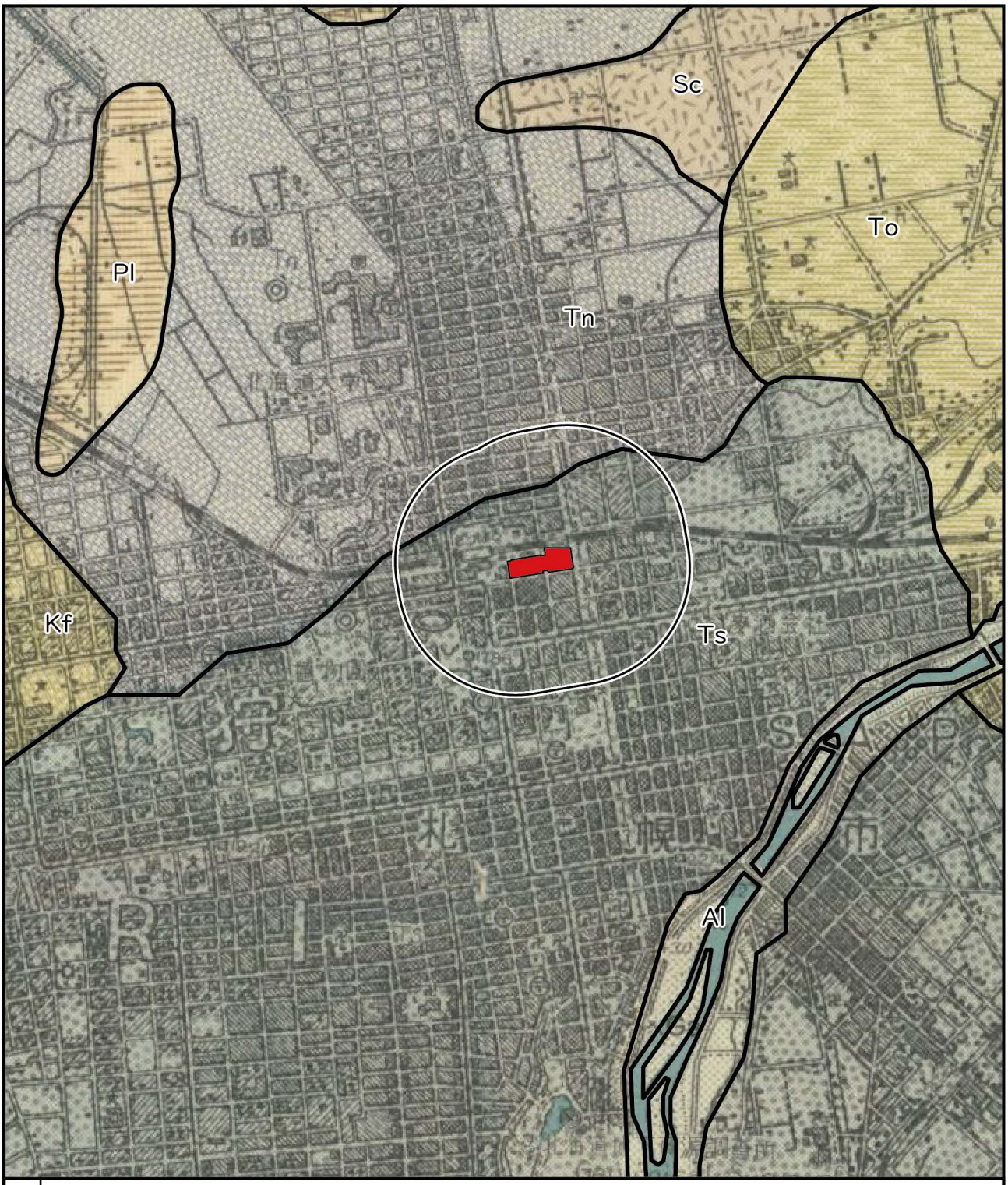
地質時代		地質		岩質
第四紀	沖積世	現河川堆積物		砂、礫、粘土
		泥炭土	低位泥炭	ヨシ泥炭
		琴似川扇状堆積物		埴土、砂、礫、粘土
		豊平川氾濫原堆積物	札幌扇状堆積物	砂、礫、粘土、壌土
			丘珠埴土	埴土
			北部札幌埴土	埴土、砂
		篠路埴土		埴土、砂、粘土

出典：「５万分の１地質図幅(札幌)」(北海道地下資源調査所)

(ｳ) 重要な地形・地質の分布状況

「第１回自然環境保全基礎調査(北海道すぐれた自然図)」(環境庁)によると、事業区域周辺には、地形・地質・自然現象に係るすぐれた自然は確認されていない。

この他、「日本の地形レッドデータブック 第１集新装版－危機にある地形－(2000年小泉武栄・青木賢人編)」において、豊平川(渓谷・扇状地地形)が保存することが望ましい地形として選定されているが、詳細な位置については明記されていない。



凡例

：事業区域(予定)

：事業区域から500mの範囲

Al ：現河川堆積物 (砂・礫・粘土)

Pl ：泥炭土 低位泥炭 (ヨシ泥炭)

Kf ：琴似川扇状堆積物 (埴土・砂・礫・粘土)

Sc ：篠路埴土 (埴土・砂・粘土)

豊平川氾濫原堆積物

Ts ：札幌扇状堆積物 (砂・礫・粘土・壌土)

To ：丘珠埴土 (埴土)

Tn ：北部札幌埴土(埴土・砂)

注）下記出典資料をもとに作成
出典：「５万分の１地質図幅(札幌)」(北海道地下資源調査所)

0 250 500 1,000m

1 : 25,000

N

図3.2.1-12　表層地質図

B. 動植物の生息または生育、植生及び生態系の状況

a.動　物

(ｱ) 動物種及び地域個体群の状況

事業区域周辺では、赤れんが庁舎周辺、北海道大学植物園、北海道大学構内及び創成川など一部に緑地がみられるほかは、大部分が市街地となっており、そのため動物は北海道の都市部周辺で一般的に見られる種が生息していると考えられる。

事業区域周辺における動物の調査資料は、表3.2.1-22に示すとおりである。

これらの調査資料に基づく動物の確認状況は、表3.2.1-23に示すとおりである。

なお、確認種の詳細一覧は、巻末資料に示すとおりである。

表3.2.1-22　調査資料一覧(動物)

No.	調査資料名
1	「札幌市とその近郊のハムシ類の季節消長と食草選択性」(昭和57年１月 北海道大学)
2	「札幌昆虫記」(平成２年３月 札幌市)
3	「北海道大学農学部付属植物園内で見られる鳥」(平成13年３月 北海道大学)
4	「北海道大学キャンパスの動物」(平成14年９月 北海道大学)
5	「北海道大学サクシュコトニ川再生事業後の水環境と魚類相」(平成22年２月 北海道大学)
6	「改訂版 北大エコキャンパス読本-植物編付・鳥類リスト-」(平成23年３月 北海道大学)
7	「豊平川さけ科学館研究報告」(平成24年３月 札幌市)
8	「札幌キャンパス生きものマップ」(北海道大学 令和２年３月閲覧)
9	「いきものログ 詳細検索」(環境省 令和２年３月閲覧)※2015～2019年ミシシッピアカミミガメの検索
10	「(仮称)札幌創世1.1.1区北1西1地区第一種市街地再開発事業 環境影響評価書」(平成26年２月 札幌市)
11	「北8西1地区第一種市街地再開発事業 環境影響評価書」(平成26年８月 札幌市)

表3.2.1-23　調査資料に基づく動物の確認状況

区　分	確認状況
哺乳類	北海道大学構内で、エゾリスやアカネズミ、キタキツネ等の４目６科10種が確認されている。
鳥　類	主に北海道大学構内で、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ハクセキレイ等の18目47科147種が確認されている。
両生類・は虫類	両生類では、北海道大学構内において、ニホンアマガエル、エゾアカガエル等の２目３科６種が確認されている。 は虫類では、赤れんが庁舎周辺において、ミシシッピアカミミガメの１目１科１種が確認されている。
魚　類	北海道大学構内及び創成川で、ウグイ、フクドジョウ、ウキゴリ等の５目７科17種が確認されている。
昆虫類	北海道大学構内、大通公園及び創成川で、アキアカネ、アブラゼミ等の13目101科242種が確認されている。
底生動物	北海道大学構内及び創成川で、カワニナ、ミズムシ、スジエビ等の18目41科65種が確認されている。

(ｲ) 貴重種の分布状況

調査資料に基づき確認された動物種から、表3.2.1-24に示す法令または文献等を参考に重要な種を抽出した。

調査資料から抽出した重要な動物種は、表3.2.1-25に示すとおりである。

事業区域周辺で確認された重要な種は、鳥類30種、両生類１種、魚類４種、昆虫類３種の合計38種である。

なお、哺乳類、は虫類、底生動物については、重要な種は確認されなかった。

表3.2.1-24　重要な種の選定基準

区 分	記号	選　定　基　準
法令等	ア	文化財保護法(昭和25年 法律第214号)に規定する天然記念物 天：天然記念物、特：特別天然記念物
	イ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)に規定する希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
	ウ	「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成25年 北海道条例第9号)に基づく希少野生動植物種 特：特定希少野生動植物、指：指定希少野生動植物
文　献	エ	「環境省レッドリスト2019の公表について」(平成31年1月)に記載されている種 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群
	オ	「北海道の希少野生生物　北海道レッドデータブック2001」(平成13年 北海道)及び以降に発表された以下のレッドリスト更新版に記載されている種 ・哺乳類：「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版(2016年)」(平成28年12月 北海道) ・両生類・爬虫類：「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版(2015年)」(平成27年12月 北海道) ・昆虫類(チョウ目)：「北海道レッドリスト【昆虫>チョウ目編】改訂版(2016年)」(平成28年6月 北海道) ・昆虫類(コウチュウ目)：「北海道レッドリスト【昆虫>コウチュウ目編】改訂版(2019年)」(平成31年1月 北海道) ・鳥類：「北海道レッドリスト【鳥類編】改訂版(2017年)」(平成29年1月 北海道) ・魚類：「北海道レッドリスト【魚類編】改訂版（2018年)」(平成30年2月 北海道) Ex：絶滅、Ew：野生絶滅種、Cr：絶滅危惧IA類、En：絶滅危惧IB類、Vu：絶滅危惧Ⅱ類、Nt：準絶滅危惧、N：留意、Dd：情報不足、Lp：絶滅のおそれのある地域個体群
	カ	「札幌市版レッドリスト2016」(2016年 札幌市）による選定種 EX+EW：今見られない、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、N：留意

表3.2.1-25　調査資料から抽出した重要な動物種

区 分	種　名	重要種選定基準(表3.2.1-24参照)					
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ
鳥類	ヒシクイ	天			VU	N	VU
	マガン	天			NT	N	NT
	オシドリ				DD	Nt	NT
	ヨタカ				NT	Nt	NT
	イカルチドリ					Dd	
	ヤマシギ					N	DD
	オオジシギ				NT	Nt	NT
	ウミネコ					Nt	
	オオセグロカモメ					Nt	
	ミサゴ				NT	Nt	NT
	ハチクマ				NT	Nt	NT
	オジロワシ	天	国内		VU	Vu	VU
	オオワシ	天	国内		VU	Vu	VU
	チュウヒ		国内		EN	En	EN
	ツミ					Dd	DD
	ハイタカ				NT	Nt	NT
	オオタカ				NT	Nt	NT
	クマタカ		国内		EN	En	EN
	オオコノハズク					Nt	DD
	オオアカゲラ					Dd	N
	シロハヤブサ		国際			Dd	
	ハヤブサ		国内		VU	Vu	VU
	サンショウクイ				VU	Dd	
	アカモズ				EN	En	EN
	ヒバリ						N
	オオムシクイ				DD	Lp	
	ツメナガセキレイ					Nt	
	ギンザンマシコ					Nt	N
	ホオアカ					Nt	N
	シマアオジ		国内		CR	Cr	CR
両生類	エゾサンショウウオ				DD	N	NT
魚類	スナヤツメ北方種				VU		
	エゾウグイ					N	
	サクラマス				NT	N	N
	エゾトミヨ				VU	Nt	NT
昆虫類	オオコオイムシ					R	NT
	ニッポンホオナガスズメバチ				DD		
	モンスズメバチ				DD		
合 計	38種	4種	7種	－	24種	34種	27種

注)哺乳類、は虫類、底生動物については、重要な種は確認されなかった。

b.植　物

(ｱ) 植物種及び植物群落の状況

1)植生の状況

事業区域周辺における植生の状況は、「第６回自然環境保全基礎調査」(環境省)によると、図3.2.1-13に示すとおりである。

事業区域周辺では、赤れんが庁舎周辺、北海道大学植物園、北海道大学構内など一部に緑地(残存・植栽樹群をもった公園、墓地等)がみられるほかは、大部分が市街地となっている。

主な植生の状況は、表3.2.1-26に示すとおりである。

表3.2.1-26　主な植生の状況

中 区 分	主な植生の状況
市街地	緑被率30%未満の市街地等で、住宅地、ビル、道路、人工構造物が卓越する区域である。
残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	比較的新しく形成された残存・植栽樹群を持つ大面積の都市公園等である。なお、残存・植栽樹群地は一括するが、1ha以上の自然林、二次林、植林、芝地等を含む場合はそれぞれ別に抽出されている。

出典：環境省自然環境局生物多様性センター「自然環境保全基礎調査植生調査情報提供サイト　統一凡例一覧表 大・中・細区分一覧表」(令和２年３月閲覧)

2)植物相の状況

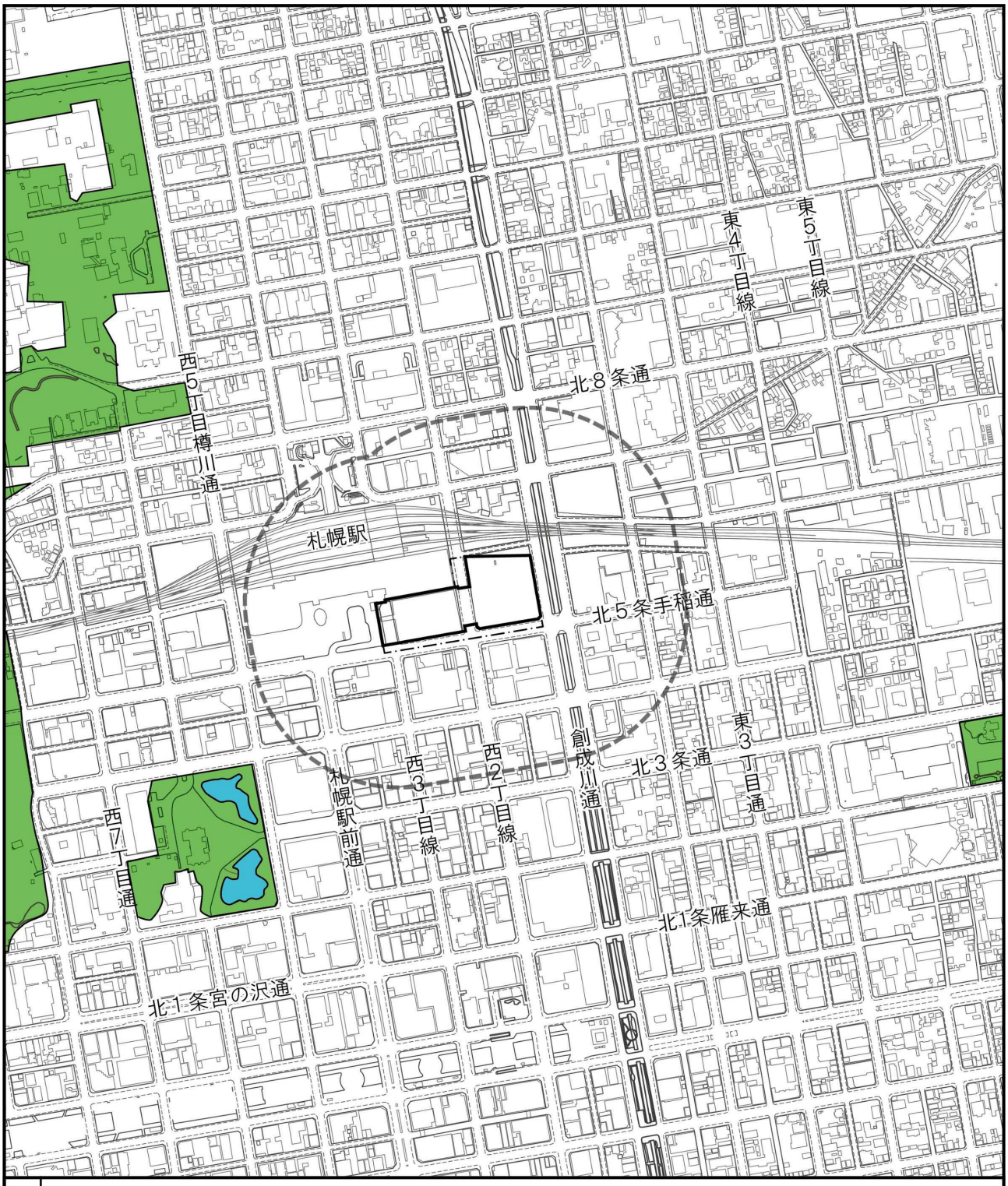
事業区域周辺における植物の調査資料は、表3.2.1-27に示すとおりである。

これらの調査資料では、イチイ、ハルニレ、ナナカマド等の116科785種の高等植物(維管束植物)が確認されている。

なお、確認種の詳細一覧は、巻末資料に示すとおりである。

表3.2.1-27　調査資料一覧(植物)

No.	調査資料名
1	「札幌の植物　目録と分布表」(平成４年５月 原松次)※北大キャンパス、市街地
2	「改訂版 北大エコキャンパス読本-植物編付・鳥類リスト-」(平成23年３月 北海道大学)
3	「赤レンガ庁舎前庭 木育樹木マップ」(北海道 令和２年３月閲覧)
4	「街路樹路線網図」(札幌市 令和２年３月閲覧)
5	「札幌キャンパス生きものマップ」(北海道大学 令和２年３月閲覧)
6	「(仮称)札幌創世1.1.1区北1西1地区第一種市街地再開発事業 環境影響評価書」(平成26年２月 札幌市)
7	「北8西1地区第一種市街地再開発事業 環境影響評価書」(平成26年８月 札幌市)



凡例

- ：事業区域(予定)
- ：施行区域(予定)
- ：事業区域から250mの範囲
- ：市街地
- ：残存･植栽樹群をもった公園、墓地等
- ：開放水面

注)下記出典資料をもとに作成
出典：「第６回自然環境保全基礎調査」(環境省)

0　100　200　500m
1：10,000

N

図3.2.1-13　現存植生図

(ｲ) 貴重種の分布状況

調査資料に基づき確認された植物種から、表3.2.1-24に示した法令または文献等を参考に重要な種を抽出した。

調査資料から抽出した重要な植物種は、表3.2.1-28に示すとおりである。

事業区域周辺で確認された重要な種(植物種)は、30種である。

なお、事業区域周辺においては、特定植物群落等の重要な群落は分布していない。

表3.2.1-28　調査資料から抽出した重要な植物種

区 分	種　名	重要種選定基準(表3.2.1-24参照)					
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ
植 物	ミヤマビャクシン					Vu	VU
	ヤエガワカンバ				NT		
	エゾエノキ					R	VU
	エゾノミズタデ					Vu	VU
	ノダイオウ				VU		VU
	シデコブシ				NT		
	フクジュソウ					Vu	
	ヤグルマソウ					R	
	クロミサンザシ				EN	Cr	
	エゾサンザシ				VU		EN
	クロビイタヤ				VU		
	チョウセンヒメツゲ				NT		
	エゾムラサキツツジ				VU		
	クリンソウ					Vu	VU
	タヌキモ				NT	R	NT
	オオベニウツギ				CR		
	ヤツシロソウ				EN		
	サワギキョウ						N
	ヤナギタウコギ				VU	En	
	エゾヨモギギク				VU	En	
	オナモミ				VU		
	イトモ				NT		
	スズラン					Vu	N
	カタクリ					N	
	クロユリ					R	NT
	コジマエンレイソウ				VU	R	VU
	ノハナショウブ						N
	ハイドジョウツナギ					R	
	ミクリ				NT	R	
	クゲヌマラン				VU		
合 計	30種	－	－	－	18種	16種	12種

c. 生態系

(ｱ) 動植物の生息・生育環境の状況

事業区域周辺は、赤れんが庁舎周辺、北海道大学植物園及び北海道大学構内などに比較的面積の広い緑地がみられるほかは、大部分が市街地となっているが、航空写真等の調査資料では、図3.2.1-14に示すとおり、市街地に分布する緑地が確認できる。

調査資料による確認状況を基に自然環境類型を３区分に分類し作成した、事業区域周辺の自然環境類型図は、図3.2.1-14に示すとおりである。

各自然環境類型区分の構成要素は、表3.2.1-29に示すとおりである。

表3.2.1-29　各自然環境類型区分の構成要素

自然環境類型区分	構成要素
市街地周辺のまとまった緑地	動植物の生息・生育の基盤は、赤れんが庁舎周辺、北海道大学植物園及び北海道大学構内にみられる緑地である。 主な植物相は、落葉広葉樹林、落葉広葉樹植林、常緑針葉樹植林等である。 主な動物相は、キジバト、コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、ゴジュウカラ、ムクドリ、カワラヒワ等である。
市街地に点在する緑地	動植物の生息・生育の基盤は、創成川沿いや住宅地の庭、小学校の校庭、寺社等にみられる緑地である。 主な植物相は、落葉広葉樹林、落葉広葉樹植林、常緑針葉樹植林等である。 主な動物相は、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、スズメ、カワラヒワ等である。
その他の市街地	市街地のうち、航空写真等でまとまった緑地が確認されなかった範囲である。 動植物の生息・生育の基盤は、建物や道路脇の草地、路上である。 主な植物相は、路傍草本群落等である。 主な動物相は、ハシボソガラス、ハシブトガラス、スズメ等である。

凡例

- ：事業区域(予定)
- ：施行区域(予定)
- ：事業区域から250mの範囲
- ：市街地周辺のまとまった緑地
- ：市街地に点在する緑地
- ：その他の市街地

0　100　200　500m

1：10,000

N

図3.2.1-14　自然環境類型図

(ｲ) 注目される種

「地域を特徴づける生態系」として、「市街地周辺のまとまった緑地」、「市街地に点在する緑地」を抽出した。

これらの「地域を特徴づける生態系」において、表3.2.1-30に示す上位性、典型性、特殊性の視点から注目される動植物の種または生物群集を資料調査に基づく結果から想定すると、表3.2.1-31に示すとおりである。

表3.2.1-30　注目種・群集における抽出基準

抽出基準	注目種・群集の抽出視点
上位性	・生態系の栄養段階の上位に位置する種で、生態系の攪乱や環境変化などの影響を受けやすい種
典型性	・対象地域で生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うような種 ・植物では現存量や占有面積の大きい種、動物では個体数が多い種、生物群集の多様性を特徴づける種、対象範囲内に広くかつ多く分布し、当該環境を代表する種 ・生態系が有する重要な機能(水質浄化機能、動物の生息場所の形成、動物の移動経路の提供、物質生産機能)を指標する種
特殊性	・対象地域において、占有面積が比較的小規模で周囲にはみられない環境に生息する種 ・特殊な環境要素や特異な場の存在に生息が強く規制される種

出典：「環境アセスメント技術ガイド生態系」（平成14年10月 財団法人自然環境研究センター）

表3.2.1-31　地域を特徴づける生態系における注目種・群集(調査資料に基づく結果より抽出)

類型区分		注目種・群集	
A	市街地周辺のまとまった緑地	上位性	トビ
		典型性	トドマツ、ハルニレ、ハンノキ、 シジュウカラ、アブラゼミ
		特殊性	－
B	市街地に点在する緑地	上位性	トビ
		典型性	イチイ、ナナカマド、 ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ
		特殊性	－

C. 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

a. 景　観

(ｱ) 地域景観の状況

事業区域周辺は、札幌扇状地の終端部及び石狩低地からなる全体的にほぼ平坦な低地であり、東側の一般国道５号(創成川通)を挟んで創成川が市街地を南北に貫流している。山地は西側に、丘陵地は南側にみられるが、札幌市中心街に位置する事業区域からは遠く離れている。

事業区域の土地利用は市街地となっており、その周辺も赤れんが庁舎、北海道大学植物園、北海道大学構内、創成川公園等の一部に緑地がみられるほかは、市街地とそれに続く住居地域が主となっている。このため、地域景観は、ビルなどの建築物により構成される市街地の都市景観が主体となっている。

(ｲ) 主要な眺望点の分布状況

事業区域境界から約500m程度の範囲における主要な眺望点は、表3.2.1-32及び図3.2.1-15に示すとおりである。

事業区域周辺には、展望施設、観光施設、公園等の主要な眺望点が分布している。

表3.2.1-32　事業区域周辺の主要な眺望点

番号	主要な眺望点	分　類	距離	概　要
1	JRタワー展望室 T38	展望施設、観光施設	近景	地上38階・高さ160mの展望室で、札幌の市街地と周辺の山並みが一望できる施設である。
2	札幌市北３条広場（アカプラ）	広場	近景	札幌駅前通と赤れんが庁舎の間に位置し、様々な活動や気軽に憩うことができ、継続的・恒常的なにぎわいの創出の場として新たに整備された空間である。
3	赤れんが庁舎	重要文化財、観光施設	近景	北海道開拓の歴史を伝える象徴的建造物として、道内外、海外からの観光客にも親しまれている施設である。
4	時計台	重要文化財、観光施設	近景	開拓期のアメリカ中・西部で流行した風船構造と呼ばれる木造建築様式が特徴の建物で、写真撮影が多い人気の観光スポットである。
5	さっぽろテレビ塔展望台	展望施設、観光施設	中景	高さ90mの展望台で、札幌の市街地と周辺の山並みが一望できる施設である。
6	大通公園	景観計画重点区域、公園	中景	92種、約4,700本の木々に囲まれたオフィス街のオアシスで、芝生や噴水の周りでは、観光客も市民も思い思いにくつろぐ公園である。
7	北海道大学植物園	観光施設	中景	植物学の教育・研究を目的に設置された北海道大学の施設で、広く一般にも公開され、「緑のオアシス」として多くの市民に親しまれている。
8	北海道大学構内	広場	中景	札幌農学校時代の明治の建物が今も活用されており、開放された構内は不特定多数の人々が散策等に利用している。

図3.2.1-15　事業区域周辺の主要な眺望点

(ｳ) 景観資源の分布状況

「第３回自然環境保全基礎調査」(環境庁)による事業区域周辺の自然景観資源の状況は、表3.2.1-33及び図3.2.1-16に示すとおりである。

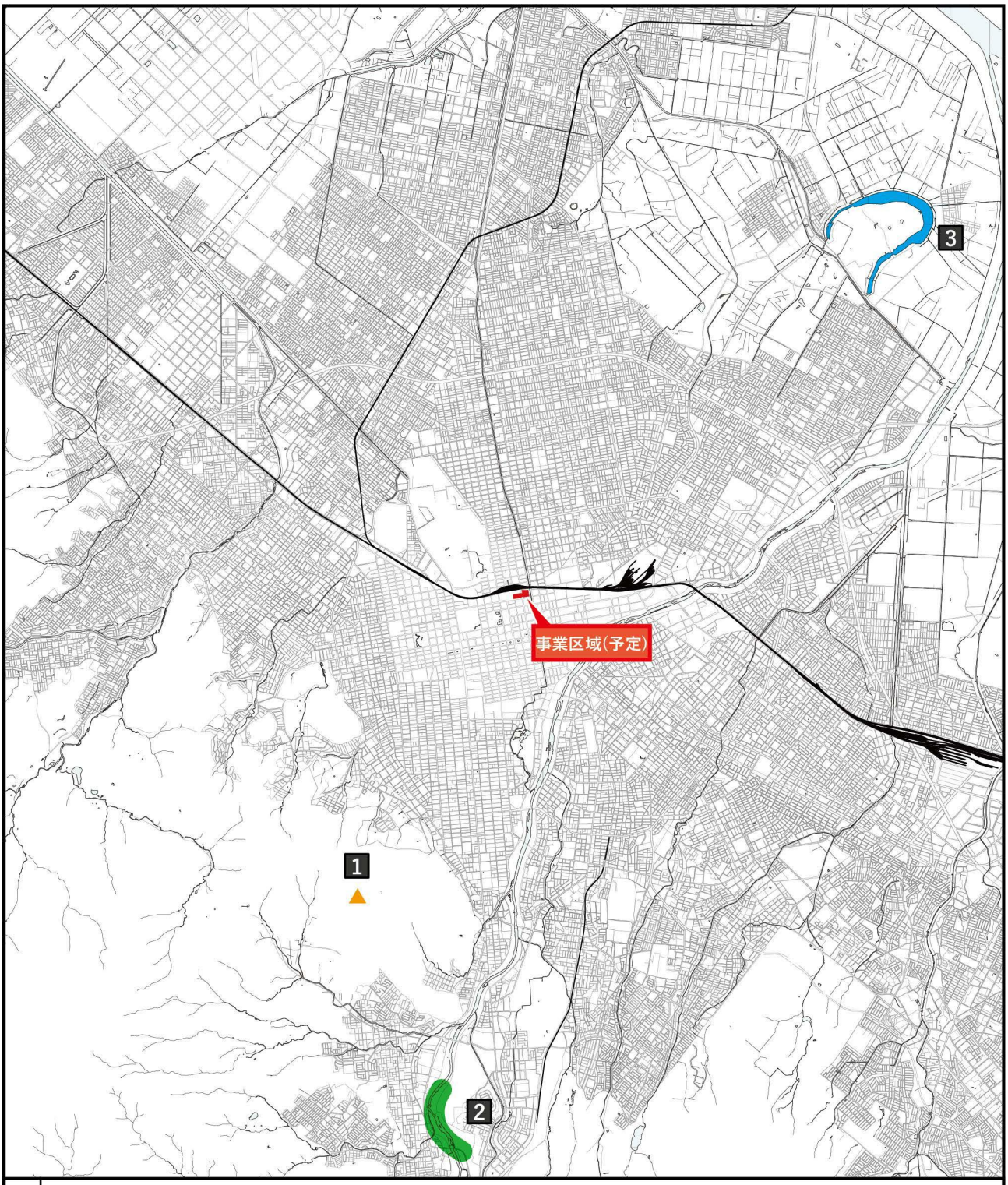
事業区域から約５km以上離れた地域に、非火山性孤峰(藻岩山)、峡谷・渓谷(豊平川・藻南公園付近)、湖沼(モエレ沼)が分布している。

また、事業区域周辺の都市景観資源としては、表3.2.1-32及び図3.2.1-15に示したとおり、重要文化財に指定されている赤れんが庁舎及び時計台、展望台として利用されているJRタワー展望室T38及びさっぽろテレビ塔展望台、公園等として利用されている大通公園等が分布している。

表3.2.1-33　事業区域周辺の自然景観資源

番　号	自然景観資源名	名　称
1	非火山性孤峰	藻岩山
2	峡谷・渓谷	豊平川・藻南公園付近
3	湖　沼	モエレ沼

出典：「第３回自然環境保全基礎調査 北海道自然環境情報図」(環境庁)



凡例

- ：事業区域(予定)
- ：非火山性孤峰（地点1）
- ：峡谷・渓谷（地点2）
- ：湖沼（地点3）

注）下記出典資料をもとに作成
出典：「第３回自然環境保全基礎調査 北海道自然環境情報図」（環境庁）

図3.2.1-16　自然景観資源の分布状況

0　1　2　5km
1：100,000

N

b.人と自然との触れ合いの活動の場

(ｱ) 野外レクリエーション地の分布状況

事業区域境界から約500m程度の範囲における野外レクリエーション地は、表3.2.1-34及び図3.2.1-17に示すとおりである。

事業区域周辺には、創成川公園、大通公園の野外レクリエーション地が分布している。

(ｲ) 日常的な触れ合いの活動の場の分布状況

事業区域境界から約500m程度の範囲における日常的な触れ合いの活動の場は、表3.2.1-34及び図3.2.1-17に示すとおりである。

事業区域周辺には、赤れんが庁舎前庭、北海道大学植物園、北海道大学構内の日常的な触れ合いの活動の場が分布している。

表3.2.1-34　人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況

区分	番号	名　称	概　要
野外レクリエーション地	1	創成川公園	創成川公園は、創成川の東西をつなぐ交流と憩いの場として、南北アンダーパスの連続化により生まれた地上部に整備された。 都心部における貴重な水辺と四季折々に楽しむことができる植栽による潤いあふれる空間となっている。
	2	大通公園	大通公園は、札幌市の中心部に位置し、大通西１丁目から大通西12丁目までの長さ約1.5km、面積約7.8haの公園である。 美しい花壇や芝生、約90種4,700本におよぶ樹木のほか、初夏の訪れを告げるライラックまつり、YOSAKOIソーラン祭り、雪まつりやホワイトイルミネーションなど、四季折々の美しい植物やイベントなどにより、１年を通して多くの観光客、市民に親しまれている。
日常的な触れ合いの活動の場	3	赤れんが庁舎前庭	赤れんが庁舎前庭には約1,000本の樹木があり、赤れんが庁舎を訪れる人々の散策の場となっている。 美しい庭園で四季を感じることができ、春には桜やライラック、夏には豊かな緑やハマナス、秋には紅葉と季節ごとに異なる表情を見せてくれる場で、写真スポットとして人気が高い。
	4	北海道大学植物園	広さ13.3haの園内にはハルニレの巨木が立ち、一部ではうっそうとした林も残されていて、明治以前の古き札幌の姿がしのばれる。また高山植物など北海道の自生植物を中心に約4,000種類の植物が育成されている。 植物学の教育・研究を目的に設置された北海道大学の施設であるが、広く一般にも公開され、「緑のオアシス」として多くの市民に親しまれている。
	5	北海道大学構内	札幌農学校時代の明治の建物が、今も学生たちの学び舎として利用されている。市民にも広く開放されているこの大学は、ゆっくり散策してまわっても６km程度である。構内にはサクシュコトニ川、クラーク像、エルムの森、ポプラ並木、大野池、イチョウ並木等がある。

出典:「創成川公園MAP&GUIDE」(札幌市)
「札幌市ホームページ(施設案内)」(令和２年３月閲覧)
「北海道大学植物園ホームページ」(令和２年３月閲覧)
「ようこそSAPPOROホームページ」(令和２年３月閲覧)

凡例

- ：事業区域(予定)
- ：施行区域(予定)
- ：事業区域から500mの範囲
- ：人と自然との触れ合いの活動の場（地点 1~5）

注）下記出典資料をもとに作成
出典：「創成川公園MAP&GUIDE」（札幌市）
「札幌市ホームページ(施設案内)」
「北海道大学植物園ホームページ」
「ようこそSAPPOROホームページ」

図3.2.1-17 人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況

0 100 200 500m
1 : 10,000

N